

# [住まいのガジェット]

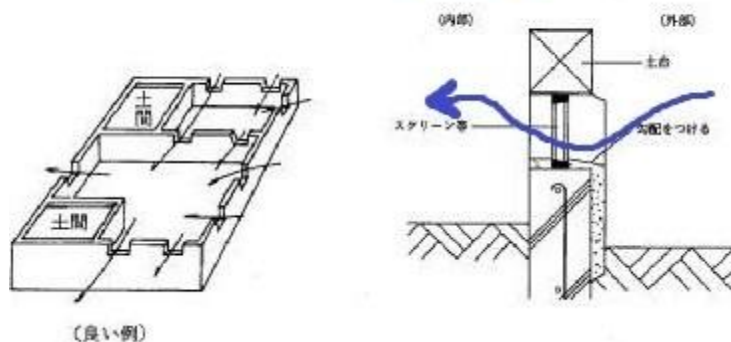
GaDget=気のきいた小物

## NO.4 「土台パッキン」

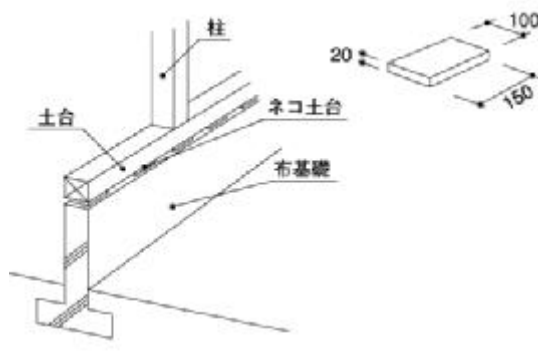
住宅の足元を見てみます。

コンクリートで作られた基礎の上に土台がセットされています。

参考図 3.3.7 床下換気



基本的には、基礎の上に土台が載るのですが、基礎と土台の間に2センチ程度のパッキンを挟み込みこの隙間から床下の通気を取る工法があります。住宅公庫の基本仕様では、床下の通気をはかるため基礎に矩形の開口を開ける、いわゆる通気口を作られています。これとともに「ネコ土台 (パッキン)」のことも記載されています。

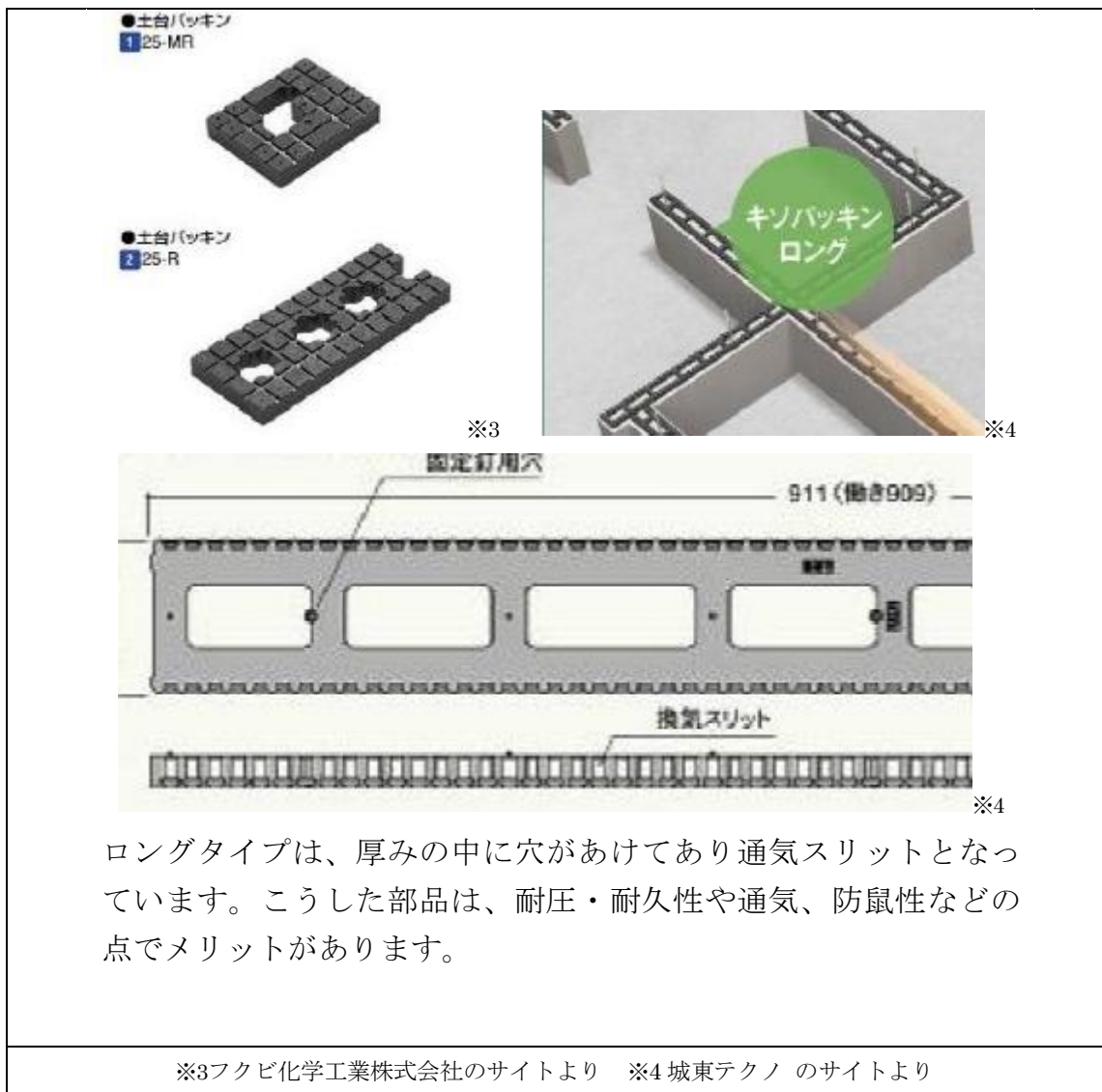


このネコ土台にもいろいろなタイプがあり、昔は腐朽に強い栗材や石材が使われていましたが、その後プラスチックやゴム系などのものが開発されています。

こんな土台パッキンがあります (ネコ土台)。

※3の部品の材質は、ポリプロピレン樹脂 / 無機質充填剤

※4の材質は、JC (ポリオレフィン樹脂+炭酸カルシウム)。



ロングタイプは、厚みの中に穴があけてあり通気スリットとなっています。こうした部品は、耐圧・耐久性や通気、防鼠性などの点でメリットがあります。

**ねこ土台** 土台と基礎との間にねこ（土台と基礎との間にかいこむものの総称）を挟んだもの。土台を浮かせて水湿を防ぐとともに、基礎に孔を設けず床下換気が確保できる工法。

- 床下換気**
1. 外周部の布基礎には、間隔 5 m 以内に有効換気面積 300cm<sup>2</sup> 以上の床下換気口を設ける。なお、間隔は 4 m を標準とする。
  2. 床下換気口には、ねずみ等の侵入を防ぐため、スクリーンを堅固にとりつける。なお、スクリーンは、鋳鉄製等の市場出来合品とする。
  3. 外周部以外の屋内の布基礎には、適切な位置に通風と点検に支障のない寸法の床下換気口を設ける。

**床下換気** 床下は、地盤面からの湿気の蒸発等により湿気がたまりやすい場所となり、ナミダタケ（寒冷地）やワタダサレダケ（温暖地）による被害をもたらしている。これらの木材腐朽菌は、乾燥に弱いので床下の換気が充分できるように下記の点に注意して換気口を設ける必要がある。

- なお、3.3.4（土間コンクリート床）の項による場合は、当該床の外周部の布基礎には、換気口は不要である。
- (1) 床下のコーナー部は、換気不足（湿気のこもり）になりがちなのでその箇所にも換気口を設けるのが効果的である。
  - (2) 床下が常に乾燥している状態を保つために換気口はできるだけ高い位置に設ける。
  - (3) 外周部布基礎の換気口から雨水が流入しないように、換気口下端は外下がり勾配をつける。
  - (4) 間仕切壁の下部が布基礎の場合は、通風、点検のために換気口を必ず設ける。

※5